

年頭 所感

「幕開け」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
会長 忍田 勉

新年あけましておめでとうござい
ます。

皆様方におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中に賜りましたご厚情並びにご支援に心からの感謝と御礼を申し上げます。

又、会長職1年目を無事越年致すことが出来、重ねて厚く御礼を申し上げます。

昨年は、大きな自然災害が相次ぎ、各地に甚大な被害をもたらしました。国内経済は比較的安定しているものの海外情勢は、米朝戦争への一触即発状態から一転、史上初の米朝首脳会談へ、一安心したら今度は米中貿易摩擦と混迷を極める1年でした。そして経済の根源をなす働き手・人材不足は外国人就労問題にまで発展するほど、日を追うごとに深刻化しています。

今年、世界のリーダーを招き日

本が初めて議長国となるG20大阪サミットの開催、来年には、東京オリンピック、パラリンピック等世界中の注目が日本に集まります。そして5月には、天皇陛下の退位と皇太子さまの即位・改元が行なわれ、「祝賀ムード」の一年になりそうです。

人工知能が急速な進歩を遂げ、様々な分野で人間の能力を凌駕し、膨大なデジタルデータが世界中を瞬時に駆け巡り、まったく新しい価値を生み出す時代になりました。Society 5.0、シェアリングエコノミーなどといったトレンドが起き、想像以上のスピードで変化が進んでいます。社会が大きく変化する時には新たな需要が必ず生まれるもので、従来の継続では予想のつかないチャンスが訪れているといっても過言ではありません。

我々を取り巻く環境におきましても、新たな「幕開け」への材料には

事欠きません。見えている需要だけでも、他業種がうらやむほどの商品群があります。そのうえ電気自動車、ロボット、無線関連など目に見えない潜在需要が出番を待っています。補助金など従来の取扱商品への追い風は豊富にあります。それらに頼って安穩とせずに、しっかりと本年に次の世代の基礎をつくりあげていただき、次世代に向けて伸びるための竹の節の年にしたいものです。

全日電材連も有望な若手メンバーの力を集結し、10年後20年後へ向けた未来ビジョン策定へ本格的に取り組めます。また商売に直結する生きた旬の情報を皆様にお届けする機会を増やしていきます。

結びになりますが、今年1年が各単組並びに会員企業各位にとりまして新しい時代の「幕開け」にふさわしい年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

「時代の変化に対応」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
広報委員会担当
副会長 守谷 承弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、わが国経済は、米国発の貿易摩擦による影響が懸念されたものの、企業収益が改善するなか、良好な雇用情勢の継続により個人消費が持ち直すなど、緩やかな回復基調が続きました。

私ども業界におきましては、製造業を中心とした設備投資の拡大や首都圏の再開発などにより堅調に推移いたしました。

国内経済が堅調に推移する一方、働き方改革が叫ばれるなか、労働時間に関する制度の見直しや生産性向上に向けた施策など、企業にとっては今まで以上に人手不足の解消というものが、ますます重要な経営課題

になると考えられます。

慢性的な人手不足を解消するため

に、今後は、より省施工あるいは効率化された製品や、AIやIoTといった情報技術を活用したサービスなどが市場を席卷していくものと予想され、工場関連のAIやIoTサービスの導入に併せて設備投資を行う中小企業も増加するものと思われれます。

また、住宅関連では新設住宅着工戸数が減少傾向にあるものの、年々増加している空き家対策としてのリニューアル需要も今後ますます拡大傾向にあると思われれます。

私ども業界としては、引き続き、時代の変化とともに求められる新しい商材、また、社会のニーズに対応した付加価値の高い商品やサービス、情報を積極的に提供し、「工・製・

販」各社様の生産性向上に貢献してまいります。

2019年は亥年でございます。猪と聞いて多くの方が思い浮かぶのが「猪突猛進」という言葉ではないでしょうか。この言葉にあるように、猪は直進しかできないとイメージされている方も多くいるかと思いますが、実は猪は、急停止や急な方向転換もできる動物であります。

私どもとしましては、成長戦略を真っ直ぐ実行しつつも、時代の変化を感じ取りフレキシブルに対応していくことで皆様のお役に立てるよう、今後も努めてまいります。

本年も変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたします。

年 頭

所 感

「『人』に関する課題解決は経営者の責務」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
総務委員会担当
副会長 三神 司

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましてはお元気で新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

11月末に経営コンサルタントのセミナーを聞いてまいりました。セミナーでは企業の戦略について直近と長期の二つの視点から様々な話がありました。私が一番大きなテーマとして感じたのは「人」に関することです。これからは、「ダイバーシティ&インクルージョン」に対応した組織だそうです。横文字は嫌いですが、ダイバーシティは様々な人材（女性、外国人、高齢労働者、LGBT、障害者など）を活用しようという考え方、インクルージョンはその多様性を持った社員全員がそれぞれの能力を発揮している状態だそうです。その働き方も多様化します。フレックスタイムやテレワークは当たり前、副業・兼業も容認です。厚生労働省のモデル就業規則が変更され、副業禁止から副業容認になっ

たのは知りませんでした。

新たな労働の考え方に加え、規制も強化されています。皆様ご存知のように2019年4月から年次有給休暇の5日間取得が義務付けられます。その他働き方改革関連法で変わるものは、勤務間インターバル制度、50%割増賃金率の猶予措置廃止、労働時間の客観的な把握、産業医・産業保健機能の強化などです。

さらに以前より経営課題として進めている「人」のテーマは、長時間勤務の是正、障害者雇用、そして人手不足対策に早期退職対策。

それに対して実行策は、残業の抑制、仕事の見直しなどの生産性向上、有給休暇の指定、採用の多様化と強化（新卒採用、中途採用、紹介・縁故採用の拡大）、70歳までの雇用延長等定年制の見直し・廃止。年金制度と退職金制度の見直し。人事制度・評価制度・賃金体系の見直し。研修制度の見直し。就業規則の変更と関連規程の新規作成。従業員代表との協定書締結。人事管理システム・時

間管理システム・RPA・スケジュール管理システムなどコンピュータシステムの導入……。

列記するだけで頭がいっぱいですね。対応しなければならぬ課題のなんと多いことでしょう。電材卸業の生産性は現在とても低いと思えます。売り方が変わらず利益も低いのに、人に関する課題がどんどん増えていき次々とコストが上がっていく。配送料の問題だって結局人の問題です。ヒト・モノ・カネのうち、「ヒト」は益々重要になります。

社員が働きやすい環境をいかに整えるかは経営者の責務であり、経営者にしかできないことです。きちんと適正な利益を確保し、将来に向けての課題を解決して、お客様だけではなく、社員からも選ばれる企業にならないと未来はないと思います。会員皆様のお会社のご繁栄をお祈り申し上げるとともに皆様のご健勝とご多幸をお祈り致します。今年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

「人を幸せな気持ちにする」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
経営委員会担当
副会長 末永 稔

新年明けましておめでとうございます。會員の皆様には清々しく新年を迎えにられた事と存じます。

昨年は、ロシアでサッカーW杯が開催され、日本は奮闘するも決勝トーナメント1回戦敗退。世界からは、采配疑問が飛んだり、大会敗退後、日本チームのロツカールームの美しさが話題となったのは記憶に新しい所です。

サッカーは、今、私の住む長崎でも盛り上がっています。「長崎の奇跡」と呼ばれたV・ファールンの活躍です。

V・ファールンは、県民の夢を託して立ち上がったチームですが、3年前は3億円以上の赤字を抱え、選手に給料を払えない状況まで陥り、クラブの存続が危ぶまれていました。その危機的状況を救ったのが、通販番組「ジャパネットたかた」でおなじみの高田明社長でした。

高田社長は、「人を幸せな気持ちにする」という目指すミッションは、

畑は違えど、ビジネスもスポーツも同じと捉えています。試合を観に来た人が「私も頑張ろう」という気持ちになるのが、スポーツの果たしている役割であり、ビジネスの世界も商品を買ってくれた人が「助かった」「楽しかった」と思ってもらえることが役割です。

その考え方から、チーム内のことは監督・コーチに全てを任せ、高田社長は自らチケット販売のCMに出たり、時にはお客様をスタジアムまで誘導したり、相手チームのサポートター達とも積極的に交流し、飲食店の呼び込みも行います。勿論、ジャパネットのアウトレット商品を格安で販売する身内の営業も忘れていません。

そんな高田社長の取組により、観客動員数は激増し、街もチームも元気になって、売上も成績も向上し、

J1に昇格した「長崎の奇跡」を起こしました。

「人を幸せにする」という大それたことは難しいですが、「人を幸せな気持ちにする」ということであれば、誰もがほんの少し気遣うだけで、繋がる事が出来、変わっていく事が出来るのではないのでしょうか。

昨年は、初のJ1に大苦戦し、J2に降格してしまいましたが、チーム強化のために、三菱重工の工場跡地に専用スタジアムの建設を決めました。スタジアムは、JR長崎駅に近く、来年には、九州新幹線の西九州ルートが開通します。すでに、長崎駅周辺は開発が進んでおり、V・ファールンと共に街は活気づいています。

「人を幸せな気持ちにする」相手への思いやりをもって、本年も皆様方と共に、実りある一年になりますことを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

「新しいビジネスモデルの構築を」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
市場活性委員会担当
副会長 深瀬 和彦

新年あけましておめでとうござい
ます。

会員の皆様には、心新たに新年を
お迎えになったこととお慶び申し上
げます。

旧年中は、組合運営に格別のご高
配、ご協力を賜り誠にありがとうございます
ございました。

今年の干支は、亥（いのしし）で
すが、60年に一度の己亥（つちのと
い）の年だそうです。

人間で言えば還暦、私が60年前の
幼い頃には夢物語であった、無人自
動車、腕時計型電話機、超高速列車、
会話型コンピュータ、人型ロボット、
ポケット翻訳機が現実のものとな
り、不治の病と言われた病気も完治
する時代となりました。現在60歳の
平均余命は、男性は23・14歳、女性
は28・47歳。そう遠くない未来には、
人生100歳時代になると言われて

います。60年前100人を超す程度
だった100歳以上の人口は、7万
人を超える状況となっています。

この様に私たちを取り巻く環境
は、更に大きく変化しています。特
に、IoT（Internet of
Things）は、あらゆる機器に、
通信機能が組み込まれ、インターネ
ットを経由して、その情報を共有し、
活用して、新しいビジネスやビジネ
スモデルが生まれ、AI（人工知能）
を組み込んだソフトウェアは、自ら
学習し新たな知識として蓄積され、
繰り返す事により進化し、適切な判
断を行います。またビッグデータと
言われる膨大な利用状況や通信記
録、位置情報、購入・移動記録、ア
クセス情報をAIが分析し、傾向や
絞込み等で得た情報は、第四次産業
革命と言われる製造業への劇的な変
化をもたらすと言われています。

社会がどの様に変化し、ビジネス
モデルをどの様に変革させて行くの
かが大きな課題となっています。生
活インフラとしての電気、機器類は、
益々重要性を増していますが、我々
業界がその役割を担い続けるかどう
かは不明です。この大きな変化に対
応し、社会変革を能動的にとらえ、
新たなビジネスモデルの構築をし続
ける事が、生き残りの為の最善の方
法だと感じています。

会員の皆様の自助努力は当たり前
ですが、全日本電設資材卸業協同組
合連合会の会員として団結し、協調
して、より一層「工・製・販」の枠
組みを更に強めて乗り切って行きま
しょう。

結びに、会員の皆様の益々のご発
展、ご健勝を祈念申し上げ、年頭の
ご挨拶とさせていただきます。

「社会の変化を業界のチャンスに」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
次世代PJ委員会担当
副会長 小島 寿之

新年明けましておめでとうございます。
育成、異業種等の参入への対策等、
こちらも課題が盛り沢山です。

会員企業の皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

私の住んでいる東京では、早いもので、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が来年に迫ってきました。

今年は、色々な施設やインフラ設備の工事の仕上げ段階に入ってきています。職人不足、商品の調達等、心配な面がありますが、期待も膨らみま

また、今年、新天皇の即位、「働き方改革関連法」の施行、消費税の増税、2019ラグビーワールドカップ等、色々なイベントや法改正と盛り沢山な年でもあります。

業界に目を向けますと、AI・IoTを活用した社会への対応、人手不足、働き方改革、次世代の人材

育成、異業種等の参入への対策等、こちらも課題が盛り沢山です。

特に「働き方改革法案」は、待つたなしです。

その為にも、働き方の内容をどう見直すか、AI・IoTを如何に活用するか等、どの業界でも改革を進めており、そこには、私どもの業界として学ぶ所と、AI・IoT化には、ビジネスチャンスもあります。

また、業界できちんと対応をしなければ、新しい人材も入ってきませんし、ある意味変革のチャンスでもあります。

さて、私が担当する次世代プロジェクト委員会は、業界の課題の一部、次世代の人材育成の「若手経営者の会」、将来的には、「若手経営者の会」と全日電工連青年部様との交流の実

現、業界の生産性向上の為にITの活用方法の検討、電材業界の10年後、20年後の業界ビジョンの作成が

主な役割です。

いずれも業界のまさに次世代を創造する仕事で有りますので、小林委員長はじめ委員全員で、会員企業の皆様方の衆知を集めて、役割を果たしたいと思います。

これからは、様々な業界において、色々な面で、とても変化の激しい、また、スピードの速い時代に入ってきて来ます。

しかし、アンテナを高くして、変化を先取りし、スピーディーに対応して行ければ、社会の変化を業界のチャンスに変える事が出来る可能性が高い業界であると思います。

そのためにも、微力ながら、業界の発展に寄与できればと願っております。

結びにあたり、本年の会員企業様の益々のご繁栄と皆様のご多幸を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。